

.....編集後記.....

◆新しい年が始まります。今年寅年です。虎は「千里を行って千里を帰る」といわれています。昨年からの色々な社会的な動きからしますと、今年は大きく変動するような気がします。皆さんの今年の抱負はどんなものでしょうか。

私は何時のころからか「乱に在りて治を忘れず。治に至りて乱を忘れず」という言葉を私の人生の基本の基としてきました。どちらかといえば悲観論者でしょうが、日本の敗戦と飢餓、その後の経済復興を経験した私にはぴったりの言葉です。この言葉を学問的に具現化したものが、地質学だと思えます。地震に例をとれば、大地震が起こると乱の状態、社会全体が災害の軽減策を論じますが、地震が落ち着くと治の状態に入り忘れられてしまいます。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」です。しかし、このような時こそ地に足のついた調査・研究をして次の地震にそなえることができるのは地質屋しかいません。

地球を知ること、それはわれわれ地球人の生活にとって不可欠なことなのです。今年も地球科学の復権のためにお互いがんばりましょう。

◆さて、今月号は地質調査所が発行している最新の地質図類の解説記事の特集しました。この内、

高井氏等による天草炭田の地質は種々の事情により未出版だった17年前の成果が公表されたもので炭鉱も無くなった今では貴重なものでしょう。地質図は必要な時に作れば良いとか、必要な所だけ作れば良いとの声もありますが、そんなに簡単にできるものではありません。地質図を初めとして、地質情報をまとめるには自分の足で歩き露頭を観察しなければならないために、非常に長い時間が必要です。これらの情報は地質屋の汗と努力の結晶なのです。地質情報は将来の地質学の大乱に備えた情報開示の活動です。そのつもりでお読みください。

◆地質屋は地球人なので、外国の地質現象にも無関心ではられません。今回はインドネシアの地熱開発に関する情報を特集しました。その内容は、村岡氏等による地熱資源の開発評価、浦井氏等による衛星画像を使った地熱探査および高橋氏等による地熱兆候(温泉)です。ご一読ください。

◆須藤氏は新しく出版された鉱物資源図について紹介しています。国内の天然鉱物資源の情報が視察されている現時点においては貴重な情報だと思います。続編を期待してください。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第521号	1998年	1月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1998年1月1日 発行	編集	工業技術院地質調査所	
	発行人	株式会社 実業公報社	
		代表者 林 光生	
	発行所	株式会社 実業公報社	
		東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073	
		Tel. (03)3265-0951(代表)	
		Fax. (03)3265-0952	
		振替口座 00110-6-32466	
		麹町局私書箱第21号	
印刷	株式会社	ケイ・トゥー・ワン	

©1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。